

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2016年 7月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2016年 7月1日発行 通巻279(毎月1回発行)

夏山をなめるな

低体温症に要注意

7月号目次

・ 目次	2
・ 合同会議報告	3
・ 初級登山教室	7
・ クリーンハイク報告	8
・ 七里川クリーンハイクに参加して	9
・ リレーエッセイ・菰釣山（こもつりしやま）	11
・ 救助隊訓練報告	13
・ 県連たより	17
・ 県連予定表	18
・	

表紙説明

七里川溪谷の清流には、小魚・ヤゴ・河鹿蛙が気持ちよさそうに泳いでいました。溪谷の両岸は新緑がとてもきれいです。

川の中には、大きなゴミは無く、ペットボトルなどがあった程度です。しかし、県道に面した崖には車で運んで来たと思われる大型ゴミが大量に投棄されていました。

前夜祭で、鶴沢さんから報告のあった「七里川溪谷」は県民の財産であり、千葉県連自然保護運動の歴史です。

年に1回位は仲間を誘って房総の素晴らしい自然を実感して下さい。そして、貴重な財産を守ってきた事、守っていく決意を再確認してはいかがでしょうか。

ヒルはいますが、それも自然です。

(自然保護委員長はヒルに好かれています、はなれて歩く事を進めます。

—— 編集者 ——

県連理事・会・クラブ代表者合同会議 報告

千葉県勤労者山岳連盟
会長 広木 国昭

県連理事・会・クラブ代表者会議を実施しましたので、下記のとおり報告します。

2016年度定時総会（3月6日）において、欠員役員の選出が出来ませんでした。特に、理事長の辞任に伴う後任の選出が出来なかった事は、千葉県連にとって重大問題です。他にも事務局体制、各委員会活動にも解決しなければならない問題が指摘されています。総会后3か月を経過した、6月の県連理事会においても解決出来ませんでした。

役員の選出については、他県連盟においても同様の状況であり、千葉県連の会・クラブでも、役員の選出が厳しい現状であることが報告されています。

2016年は、千葉県連創立50周年記念の節目の年です。前年度より、全会・クラブの参加でいくつかの記念事業が実施されています。50年たった組織の現状を明確にし、各会・クラブが同じ認識を持つことが重要です。

千葉県連の会・クラブの5年後、10年後の状況を考えると会員の減少による会・クラブの運営が厳しくなることが想定されます。これには、会員の高齢化、若年層の組織離れなどが指摘されています。

今、会・クラブの生き残りをかけて、新しい仲間を迎える、次世代を託せる仲間を迎えられる組織をつくるために、千葉県連の総力を結集したいと思います。

その第一歩を、「県連理事・会・クラブ代表者合同会議」で踏み出したいと思います。会・クラブのご協力をお願いします。

記

- 1 実施日 2016年6月25日（土） 13時より
- 2 議題
 - ① 千葉県連の現状報告
 - ② 欠員役員の選出について
 - ③ 事務局体制について
 - ④ 県連理事選出・委員会活動について
- 4 参加者
 - ① 会・クラブ代表者
 - ・船橋勤労者山の会 ・松戸山の会 ・東葛山の会 ・千葉こまくさハイキングHC ・山の会らんたん ・山の会岳樺クラブ
 - ・かがりび山の会 ・ふわくハイキングHC ・シリウス山の会
 - ・まつど遠足クラブ1年さくら組 ・千葉アルパインクラブ
 - ② 県連理事 出席者 14会・クラブ 欠席 5会・クラブ
 - ③ 役員 ・顧問 ・会長 ・副理事長 ・ハイキング委員長
・自然保護委員長 ・会計
 - ④ 参加者合計 34名

- ◆ 県連理事・会代表者の参加がなかった会は3会、代表者の参加がなかった会は8会であった。開催日が土曜日の午後であったこともあり参加者が少なかった。

- ◆ 合同会議は、例年は2月に実施していたが、欠員役員の選出、事務局体制の確立を早急に解決するために6月25日に実施した。

5 議題

① 役員選出に関する具体的な提案

- ・各会・クラブの会員に、県連の現状を報告し討議をお願いします。会としての提案・意見などを検討して下さい。その中で、引きうけてくれる会員、手を挙げてくれる人がいる事を期待します。
- ・今回の合同会議で、現状を理解していただき、根本から解決する糸口を見つける。一度の会議で決定するとは思えない。
- ・欠員役員の選出・決定も重要ですが、選出・決定に関するルール・申し合わせなどを確立する事を優先する。毎年、役員の選出・決定で迷走し、なお選出・決定が出来ない事態を解決する。

② 理事会について

理事会は、全会・クラブより選出された理事によって構成され、理事は会・クラブと県連のパイプ役であると同時に、県連の中心として各種活動に責任を持つ。

- ・理事は、理事会に出席し、担当理事として委員会活動に参加する。
- ・理事個々の負担を軽くするために、複数理事の選出をする。

③ 専門委員会の活動について（7委員会+ホームページ部+救助隊）

県連の全ての活動は、専門委員会によって実施されています。

- ・各委員会は、担当理事と各会・クラブから選出された委員で活動する。
- ・現在、委員会として活動はしているが、各委員会ともメンバーが足りない。
- ・会員の要求・期待に応える委員会活動が出来ているか？ 各委員会の任務分担、具体的な運営の見直しも視野に入れて検討する必要がある。

④ 機関紙委員会について

- ・委員会のメンバーは0で「ちばニュース」の発行に支障が出ている。
- ・各会・クラブの機関紙・会報担当者の協力・参加をお願いしたい。
- ・編集委員会などが実施されていない。
- ・メール配信をしているが、会員に届いているか、読まれているかの問題もある。
- ・原稿が集まらない。会・クラブ紹介の当番会からの投稿がなかった月もある。
- ・ホームページ・ツイッターなどが盛んですが、組織の情報伝達には紙ベースの有効活用も必要ではないか。

⑤ 事務局活動の具体的な改善について

事務局体制は、事務局長+事務局員（複数）が一般的であり千葉県連も同様な体制で運営をしていたが、2011年以降、事務局不在が続いている。

後任を選出出来ない要因は、欠員役員の選出が出来ない事と基本的に同じである。事務局活動は、組織の要であり中心です。

しかし、事務局業務は多種多様で「やればきりが無い」などと敬遠される側面もあります。現在の会・クラブの現状とマッチした事務局活動が必要です。

今、事務局が求めるのは「出来る事を、出来る時に、出来る人」です。

◆事務局業務・体制の見直しについて。

- ・事務局業務を幾つかに分け、個人、グループ、会・クラブ等で協力できる範囲で分担する。会・クラブの輪番制なども考慮する。
- ・パソコンやメールでの、参加・協力を検討する。
- ・参加、協力を時間、曜日、回数等で幾つかに分けて協力をお願いする。

◆事務局業務の細分化の例

- ・各会、クラブとの連絡窓口。
- ・県連事務所の維持管理（各種資料、事務用品の整理、事務所の清掃）
- ・理事会資料の準備、理事会議事録の作成
- ・カレンダーの集約、集金の窓口

◆事務局業務を具体的に分ける。

1年間を通しての参加でなく、特定の仕事をスポット的にサポートする。

① 期はじめに実施する事

- ・総会に関する事（総会運営、議案書等資料整理に関する事）
- ・各会・クラブ情報整理、
- ・各委員会資料の整理

② 会・クラブと県連・全国連盟の事務処理

- ・役員・委員の交代に関する事務処理
- ・全国連盟への連絡・報告
- ・労山カレンダーの購入の事務処理
- ・毎年、10月注文の集計・12月配布と集金・全国への送金

◆事務所の維持管理に関する事。

① 整理・整頓の実施

- ・事務所の掃除（2・3月に1回）
- ・文房具類整理・印刷機の維持管理（適宜に実施）

② 資料の整理・保管

- ・図書類の整理・管理
- ・総会資料など県連に関する資料整理・保存
- ・会・クラブから送られた、会報・記念誌の整理・保存

☆事務局のサポートは、参加・協力してくれる会員の希望する、時間帯や仕事内容を最優先してお願いする。一人でもグループでも、会・クラブ単位でも可能です。協力いただく期間等は、協力者の希望するスタイルとします。

◆理事会議事録・総会資料類の整理。

- ・理事会に出席して、議事録を作成し各会・クラブへ送付。

⑥ ホームページ部会について（HP部）

HP部は事務局の所属で、HPに関する全てを実施している。

現在は、岳樺クラブ会員にアドバイザーとして指導・協力をお願いしています。

アドバイザーと会長で協議し委託会社に更新の依頼をしている。

ホームページは会員に県連活動を発信すると同時に、登山・ハイキング等の愛好者に組織情報を提供する組織拡大の有力な武器です。

- ・最新の内容を掲載出来ないとホームページとしては致命傷である。

- ・ホームページへの掲載は、掲載内容をまとめ管理委託会社に依頼する。
- ・部会は、基本的に2月に一回を目安に実施しています。
- ・会・クラブのホームページ担当者との情報交換を実施する。
- ・現在、HPを運用していないが、開設に興味のある会・クラブへのお手伝いやアドバイスをを行う。

⑦ 会計業務について

- ・現状は、一般会計（連盟費、交通費・安全対策金）の管理が中心である。
- ・一般会計以外には、行事故計、各種資金カンパなどがある。
- ・委員会の交通費、行事参加費用などは、委員会が責任を持って運用する。
- ・各会・クラブは、連盟費納入などについて会計に負担をかけない事も重要です。
- ・会計担当は2年交代を目安に、2名が必要かと思えます。

☆☆☆ 確認事項 ☆☆☆

幾つかの問題提起に対し、役員選出に関する確認が出来た事は大きな成果です。
委員会活動、理事会活動についても一定の共通認識を持つことが出来たと思えます。

1 役員選出について

- ・上位6会・クラブで協議し選出する。
- ・早急に、役員選出について6会で協議し、選出ルールの確認、欠員役員の選出を実施する。

※上位6会とは:会員数50名以上の会・クラブとしました。(県連盟会員数の73%)

2 県連理事選出について

理事会活動・担当委員会活動の充実のために、複数理事の選出について討議した。現行の1名選出も厳しい中、複数の選出は負担になる。各委員会に積極的に委員を選出する事が良いとの意見も出された。ぜひ各会・クラブから各委員会に代表を選出していただきたい。

県連理事と委員では、県連活動への責任の違いがあると思えます。県連規約では理事会は、加盟団体1名以上の理事と役員によって構成、とあります。強制ではありませんが、複数理事の選出も積極的に検討して下さい。

3 専門委員会の充実について

会・クラブの実情に合わせて、選出・参加をお願いします。主要会から積極的に選出をお願いします。理事の複数選出よりは、委員会に代表を選出する担当理事にたよらない委員会活動のために、委員の選出・参加を検討して下さい。

4 事務局活動について

- ・従来の事務局活動にこだわらず、事務局の実務を細分化する。理事会で検討して各会・クラブに持ち帰って討議をおねがいします。
- ・1年間に1時間の協力でも大変助かります。事務局の実務を、会・クラブで、個人で、グループで、受け持っていたいただきたいと思います。
- ・事務所も千葉県連のセンターとして活動の拠点として、機能出来る県連事務所にして行くことも重要です。数か月に一回の整理・整頓も県連活動です。参加・協力をお願いします。

2016 初級登山講習のまとめ

教育遭対委員会

去る6/11、栃木県の鹿沼岩山にて、主に各会の初級者を対象とした講習会を救助隊の協力を得て実施しました。昨年は、西富士にて2日間の日程でしたが、交通の便等を考慮し、近場で単日の取り組みとしました。

10会（*） 計43名の参加で4班に分けて行い、無事終了しました。

*シリウス☆山の会 千葉こまくさハイキングクラブ 茂原道標山の会 船橋勤労者山の会 君津ケルン山の会 松戸山の会 かがりび山の会 まつど遠足クラブ1年さくら組 まつど山翠会 ちば山の会

街中での地図読みから始まり、登山口でのストレッチの後は、初級の岩場での登下降、7点セットを使用したロープワーク基礎、岩場のトラバース等を行ったのち、林の中で、ツェルトの使用法、雨具・ストック・ザックを使った搬出法、救急法、テーピング等の講習を行った。

机上での講習とは違い、実際の岩場と山の中での講習は臨場感が有り、また、「単位会だけでは取り組みが難しいので大いに役立った。」等概ね好評だったと判断しますが、内容が多すぎて時間が足りず、講師によるデモのみとなった箇所も有り、次回は更なる工夫を行いたい。



簡単な技術でも、いざというときの確に出来ますか？
年1回の講習会の時だけではダメです。
日頃の繰り返しを実行することが大事です。
早速、今日からやろう。

県連統一クリーンハイク報告

自然保護委員長 菅井修(ちば山の会)

今年度の統一クリーンハイクは、千葉県連 50 周年記念事業の一環として県連が取り組んできた追原ダム反対運動を振り返り、6 月 4 日前夜祭、5 日は五月雨の降る中でダム建設予定地だった現地を見学しながら行った。両日の概要を示します

4 日(土) 15:00~17:00

会場 追原ダムを中止に持ち込んだ主役の宿大きなイロリのある中広間

参加者 7 会 17 名

ふわくハイキングサークル 6 名 君津ケルン山の会 2 名

千葉こまくさハイキングクラブ 3 名 茂原道標山の会 2 名

ちば山の会 2 名 松戸山翠会 1 名 松戸山の会 1 名

演題 鵜沢さんを囲んで自然保護セミナーで話せなかった所などを
ざっくばらんに

追原ダム計画の出発点 1960年の黄和田畑の大火

詳しい内容は鵜沢氏自身のまとめを見てください。

18:00~ 懇親会 夕食を兼ねイロリを囲んで大いに盛り上がる。

5 日(日) クリーンハイク当日 9:30~12:00

場所七里川溪谷 黄和田トンネル出口から白岩温泉まで

参加者 9 会 30 名

ふわくハイキングサークル 6 名 君津ケルン山の会 2 名

千葉こまくさハイキングクラブ 4 名 茂原道標山の会 2 名

ちば山の会 6 名 松戸山翠会 1 名 松戸山の会 1 名

船橋勤労者山の会 4 名 **東葛山の会 4 名**

朝 9:00、当日参加者も含めて温泉の玄関前の集結し、溪谷の三コースに分かれて霧のような小雨がぶる中、溪谷に入り実施。当日の溪谷の豊かな自然は鵜沢さんの文章を見てください。

この地域は数年前にもクリーンハイクを行った時と比べ、ゴミは少ない様に感じられたが、川岸の崖には相変わらず空き缶やペットボトル、不法投棄されたゴミがある。不法投棄された自転車まであった。回収したゴミは県道の七箇所分散して集め、君津市に回収を依頼した。回収ゴミの総量は 230kg にもなった。雨模様の中、ヒルにもめげず参加して下さった皆様ありがとうございました。

七里川クリーンハイクに参加して

う沢喜久雄(ふわくハイキングサークル)

労山三つの顔

労山は三つの顔を持って発展してきた。その一つは、ハイキングからヒマラヤまでをスローガンにした登山の顔です。

その二つめは、遭難事故への対応としての相互扶助の遭難救助保険システムを確立した人命尊重のヒューマニズム溢れる登山団体としての顔です。

その三は、クリーンハイクに象徴される日本の山岳自然保護を願う登山団体としての顔です。もし仮に三つ目の顔が労山に欠落していたならば、労山運動がもつ今日の社会的評価は違ってものになっていたと思います。この一節は元自然保護委員長を務めた江川節夫さんの言葉です。(山岳自然環境保全運動より)

七里川溪谷のクリーンハイクの企画

私たちは今年のクリーンハイクを”思い出の七里川溪谷”を企画して、2016年6月4日前夜祭、5日は五月雨の降る中で清掃活動を成功させました。

私たちの県連は結成 50 周年の行事として、去年の秋に、①房総半島の地形と特性を学ぶ ②房総の湧き水と鬼泪山の特性 ③七里川溪谷に企画された追原ダムを運動から学ぶこと、この三つをテーマにして”自然保護セミナー”を百名を超す参加者で成功させました。このセミナーの力で、今年の七里川クリーンハイクを選定し、七里川温泉を前夜祭会場とし日帰り参加者と二本立てで計画しました。

前夜祭の参加者は17名、日帰りクリーンハイク参加者は13名でした。東葛山の会 ちば山の会 千葉こまくさハイキングクラブ 船橋勤労者山の会 松戸山の会 君津ケルン山の会 茂原道標山の会 松戸山翠会 ふわくハイキングサークルの9団体からの参加でした。

自然豊かな七里川溪谷に大満足

気象庁の”梅雨入り宣言”の5日朝、温泉の玄関前の集結し、溪谷の三コースに割り振られて現場に向かいました。

宿や谷間の上空にはホトトギスの高鳴きが渡っていきます。黄和田トンネルの先にはマタタビのつるが伸び、早くも緑の葉を白色に変化させて季節の移ろいを感じさせました。溪谷の降り口には、春一番に咲いたフサザクラが柔らかい縮んだ葉を繁らせています。にごりの澄んだ川の水は、ちょっぴり冷たく感じましたが山ヒルに喰い浸かれずに入溪できました。川岸にはアブラギリが大きな葉をのぼし、早くも白い花を咲かせてきれいでした。岩岸のイワタバコは花をつけていません。楽しみにしていたカジカガエルの声もありません。ウグイは群れています。砂地や小石の上にはセグロセキレイがペアーで遊んでいます。天気が上がればサンコウチョウも鳴くはずですがこの日はありませんでした。卯の花は白い花びらを散らし始めています。夏が来た感じです。

前夜祭はイロリを囲んで盛り上がる

追原ダムを中止に持ち込んだ主役の宿は七里川温泉の大広間です。追原浅間をつくり、祝勝会の会場でもありました。

今日は大きなイロリのある中広間でした。黄和田住民の焼いてくれた木炭を惜しげもなく使う大イロリを囲んで話が始まりました。セミナーで講演したう沢喜久雄氏が”追原ダムを中止に追い込んだ宿がこの宿だった”と話し出しました。そして追原ダム計画の出発点が”黄和田畑の大火災”(1960年3月15日に発生)だったと歴史を語りました。この山奥の大火事は黄和田畑46戸の集落のうち30戸以上を消失する春一番の強い風の中で起きた事件で、亀山君津方面からのポンプ消防車が狭い山道のため入れなくて、集落民の見守る中で次々と焼けていった火災で”まともに車が入れる道があれば”とくやし泣きをした事件が出发点となった。これに目をつけた保守系の県議が 亀山・黄和田畑・四方木・清澄・天津へぬける山道(県道)工事は、ダム関連でやるのが早道だと言ってダム計画となったいきさつがありました。ところが計画を見ると追原ダムを造ると県道が水没し、これの付け替え工事が矢山をくりぬいて追原へぬけて、白色・四方木へのルートとなっています。

この追原は房総民の抵抗の歴史が残る隠れ里です。七百年の歴史を持つ巨大なカエデ、役の行者、山伏に関する出羽三山の神社、山里の民に善政をつくしたカスヤ氏の屋敷跡の石積の跡を残すことが大事となりました。七里川を歩き追原を訪ね、テントを張って追原が好きになった人達が”追原を歩く会”をつくりました。この会が運動の中心となりました。

ダム中止に追い込んだ力

この運動の差は結果につながりました。ダムを造る人々は地元君津・亀山地区の人々。中止の人達は、七里川溪谷を歩き追原がある事を知った人達が起点となり、数次にわたるクリーンハイク、現地を訪れる人達が自然を守れ、遺跡を守れの声を上げ、労山県連の立ち上がり、全国の自然保護集会での訴えで、全国に広がりました。

中止の運動に参加した人達は、特技・特徴を發揮しました。カメラと写真で訴える人、作詩で作品を発表する人、ケーブルテレビで映像で訴える力は大きな力となりました。訴えのタコをあげる人もありました。県連の千名近い人の組織力と全国連盟の組織力も世論となりました。



女子隊、念願の菰釣山に挑戦する

畔ヶ丸（1292.6m）～菰釣山（1348m）

岳人あびこ 高橋芳恵

1日目

山の会に入会して長年となるが、ぜひ行きたい山の一つである菰釣山に行く機会を与えられた。初日は西丹沢自然教室から畔ヶ丸を目指した。権現山登山口までは西沢にかかる橋を何回も渡りながら水音と共に軽快な沢歩きとなった。新緑の山は緑に染まるように心が洗われ、山歩きとして最も心地よい季節である。沢伝いの下棚沢、本棚沢のうち本棚沢に立ち寄ることにした。本棚沢には二つの見事な滝があり、その景観の素晴らしさを堪能し、滝からのマイナスイオンを全身に浴びた。善六のタワを越えて昼頃、畔ヶ丸山頂（1292.6m）に到着した。山頂は狭く昼食を摂る登山者が多かったため私たちはその先の避難小屋まで進むことにした。

私たちはここから東海自然歩道に入り、モロクボ沢の頭から大界木山（1246m）に至った。ここからは今夜の宿のある道志温泉にいったん下り、翌日再び稜線に戻ってくる計画である。道志キャンプ場では若主人の迎もあり、料理民宿山荘水之元に向かった。

歩行時間 6時間



本棚沢

西沢を越えて

2日目

料理民宿だけあり昨夜の料理は山菜、ヤマメを中心としたなかなかのものであり、早朝から用意された朝食にも心がこもっていた。しかも安価で是非再訪したいお勧めの宿である。昨日のキャンプ場まで送ってもらい50分程の城ヶ尾山（1198.1m）を目指した。昨日の下りと異なり難なく稜線に戻ることができ、昨日の下りはかなりの回り道であったことが分かった。早朝でもあり、メンバーの足取りもよく軽快の歩きであることが何よりうれしい。一帯はブナ林となり地名もブナ沢の頭（1229m）、ブナ沢乗越とブナ特有の明るい森である。しかしピークの前には必ずアップダウンが続く。程なく菰釣避難小屋に到着した。避難小屋は新しく、清潔な立派なものであった。ここで本日唯一の登山者に出逢った。

『頂上は誰もいなくて静かですよ』の言葉には励まされ、あこがれの菰釣山（1379m）山頂に立つことができた。『ヤッター！』どこから入ってもアクセスが遠く、避難小屋での泊りを強いられ、なかなか容易に来られない山であるからこそその威厳が感じられた。展望もよく山中湖、富士山、道志の山々を存分に眺めた。

さらに東海自然歩道を下り大柵の頭（1265m）を目指した。ミツバツツジのトンネルが続く下りとなり、同行者の歓声が響いた。下るはずのトレイルは何故かアップダウンの連続であり、ブナノ丸、油沢の頭、樅の木沢の頭（1306m）、西沢の頭、西保土山（1297.3m）とすべて急な登りの連続であった。歩き続けた割にはほとんど標高が下りていないことにも当日の暑さと共に体に堪えたがハルゼミの鳴き声が励ましてくれている。

一路、高指山方向に進み、ついに分岐の富士岬に到着した。山中で岬とは面白い。ここからの山中湖の展望はよく、新しく切り開かれた下山道がまっしぐらに下りている。下山は難なく、別荘地に到着した。石割の湯で入浴して帰ろうと話が決まり、平野へ続く舗装道路を20分ほど温泉まで向かう間が何よりも厳しい歩きとなり、『これならアップダウンの方がマシかな』と考えながら納得した。石割の湯で2日間頑張ってくれた2本の我が足に感謝し、ゆったりと休息することができた。 歩行時間 7時間30分



菰釣山山頂にて

コースタイム

1日目 我孫子 5:33→西丹沢教室 9:15⇒本柵沢 10:10/20⇒畔が丸 12:30⇒避難小屋 12:38/13:05

⇒モロクボ沢の頭 13:25⇒大界木峠 14:10/20⇒浦安峠 14:50/55⇒道志の森キャンプ場 16:25⇒宿

2日目 山荘水之本 6:30⇒城ヶ尾峠登山口 7:15⇒城ヶ尾山 8:07⇒避難小屋 9:35/40⇒菰釣山 10:10 /30⇒ブナノ丸 10:55⇒油沢ノ頭 11:20/30⇒樅の木沢ノ頭 11:50/55⇒西沢ノ頭 12:15⇒石保土山 12:47⇒山伏峠分岐 13:40⇒富士岬平 14:27⇒石割の湯 15:30/16:56⇒富士山駅 18:00⇒我孫子 21:30

千葉県連 救助隊チームレスキュー基礎訓練 (6月度の報告)



1. 日時 2016年6月18日

2. 場所 高宕山大滝ルート

3. メンバー 12名

(CTC) CL 徳永副隊長・神山・角掛、(まつど遠足) 西村副隊長、(船山) 関口、(岳樺) 古畑、
(東葛) 星、(ふわく) 田中(康)、(松戸) 加倉井・石塚、(かがりび) 伊東、(ちば山) 住田(記録)

4. 内容

チームレスキュー基礎訓練 (三次搜索想定、二次遭難回避)

[装備]

- ・アルパイン・沢登り主要装備(ハーネス、ビレーデバイス(ATCガイド、ロープマンI..))
- ・スタティックロープ
11.0mm*50m x2本、9.0mm*100m x1本
- ・アッセンダー(ユマール、ベーシック..)
- ・ジャミングプーリー(マイクロトラクション..)、プーリー
- ・ストップ..



[訓練内容]

- ・フィックス支点工作
- ・スタティックロープ(シングル) +
バックアップロープによる懸垂下降(右上)、
カウンターラッペル
- ・懸垂下降からの登り返し
- ・引き揚げシステム(1/3)(右横)
- ・救助用ザックによる負傷者背負い訓練(次)

5. 隊員感想

スタティックロープ(シングル)とアッセンダーでの登り返しは、アルパインのダイナミックロープ(ダブル)に比べて、スムーズで扱いやすいと感じた。

引き上げは、1/5システム以上でないと重くて上げられない認識であったが、今回プーリーを支点の2ヶ所に配置することにより、セットが簡素な1/3システムでも、十分実用的なことがわかり、収穫であった。特にマイクロトラクションは軽量で、7点セットに加えて常時携帯してみたい。

救助ザックは、組み立てが必要で慣れておく必要があるが、背負われる方、背負う方とも負担が少ないようで、有効な装備と思った。

今回の訓練場所は、比較的近場でハイク者も少なく、駐車場からも遠くなく、基礎訓練場としては良い場所であった。

6. 新隊員の感想

今回初めて訓練に参加した。

教育遭対での訓練は、通常持つていく装備(主として7点セット)でのビレイや搬送であるが、救助隊訓練では、救助のための装備を準備して行うため、本格的な訓練であることを実感した。

(100mロープが必要なことも納得)

初めての器具(デバイス)(シャント、ユマール、ロープマン、プーリーなど)を使い、救助のための基本的な技術である、支点づくり、下降、引き上げを行った。

特に、1/3システムによる引き上げは興味深かった。簡単な仕組みで、1/3の力で引き上げることができるのは驚きである。

現場で撮影したビデオも、後でゆっくり見直しができ、徳永リーダーの的確なアドバイスを繰り返し聞けて、大変有効だと思う。

今後の訓練も撮影し、ライブラリ化していくとよいと思う。

短い時間だったが中身の濃い訓練で、今後も継続して参加していきたいと思っている。



補足メモ 1

1/3引き上げ（プーリー必須）

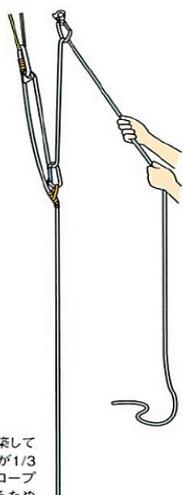


左上：
マイクロトラクション
（ベアリングマーク付）
軽量で効率 good

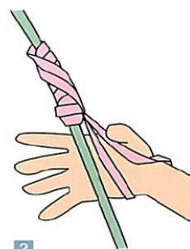
左下：
ロープマンの代わりに
アッセンダー、ベーシッ
クでも訓練実施

■1/3システム

プーリーの代わりにタイブロックとカラビナを使った1/3システム。タイブロックとフリクションノットを使ってオートブロックシステムとしている。タイブロックを使用するときは、必ず径の太いO型の安全環付カラビナと併用すること。



1
このようなシステムを構築して事故者を引き上げるのが1/3システム。この例では、ロープを引っ張る方向を変えるためのカラビナを支点に1枚セットしている



2
ロープにフリクションノット（ここではクレムヘイストノット）をセットすると引っ張るときに力を入れやすい



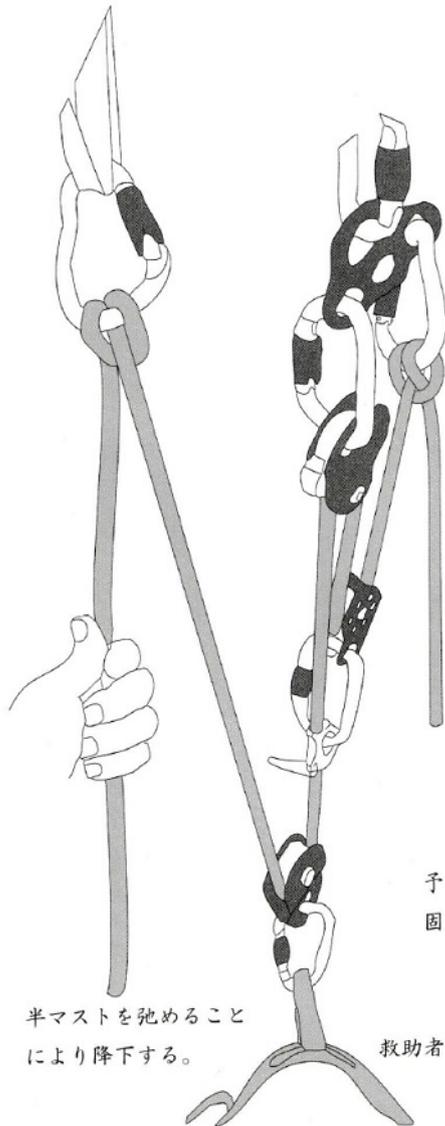
3
フリクションノットをハーネスにセットすれば、体重をかけて引くことができるので楽だ

左図：タイブロック
使用時には、重りで
カラビナをぶら下
げておく。

中央図：今回はアセ
ンダー使用

補足メモ2

今回は、1/3システムで訓練実施



①救助者下降時のセット
ロープ末端側を引き上げのシステムをセットの上で固定する。もう一方は、半マスト他の制動セットを行ったうえで、その間に救助者の滑車とバックアップ（図には記述してな

救助者が負傷者の位置まで降下して、応急処置を施した後に、救助者と負傷者をストレッチャー等で同時に引き上げるには、1/6と1/10システム程度のセットが必要となる。これは、基本システムの組み合わせによって容易に構築できる。

(5) 救助者が降下して負傷者と

共に引き上げる

い) をセットする。その上で別途の別ロープにより、バックアップロープとする。半マストを緩めることにより救助者は下降していく。

途中でロープ屈曲点が発生すると思われる箇所には、滑車を設けながら下降するとよい。

降下後の引き上げの時は、

1. 左の半マストの上に、仮固定(任意、Gノット?)をする。
2. 右のクローブヒッチを解除し、プーリーに差し替え、引き上げる。

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)
- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページから常時入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>
 - ◎ 支援活動日のお知らせ
 - ・ 7月日9・10日 谷川浜
 - ・ 8月はお休みします。
 - ◎ 支援物資販売活動について
 - ・「ゆう」の財政活動として、支援活動に参加する皆様の、交通費補助に大変役立っています。引き続きご協力をお願いします。
 - ・三陸・気仙沼直送の支援物資は「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」「くきわかめ」「すき昆布」「とろろこんぶ」常時用意しています。宅配も、相談下さい。

支援物資に関する問い合わせは
下記アドレスに連絡を！
danphiro@zpost.plala.or.jp

県 連 活 動 予 定 表

7月		行事予定	8月		行事予定
1	金		1	月	
2	土	全国遭難対策担当者会議	2	火	役員会
3	日	//	3	水	
4	月		4	木	
5	火	県連役員会	5	金	
6	水		6	土	
7	木		7	日	
8	金		8	月	
9	土	NPO支援活動	9	火	
10	日	(谷川浜)	10	水	
11	月		11	木	山の日
12	火		12	金	
13	水		13	土	
14	木		14	日	
15	金		15	月	
16	土		16	火	
17	日		17	水	
18	月		18	木	ゆう役員会(理事会休み)
19	火		19	金	
20	水		20	土	
21	木	県連理事会	21	日	
22	金		22	月	
23	土		23	火	
24	日		24	水	
25	月		25	木	
26	火		26	金	
27	水		27	土	関プロ役員交流会
28	木		28	日	
29	金		29	月	
30	土		30	火	
31	日		31	水	創立50周年実行委員会

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治 編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ